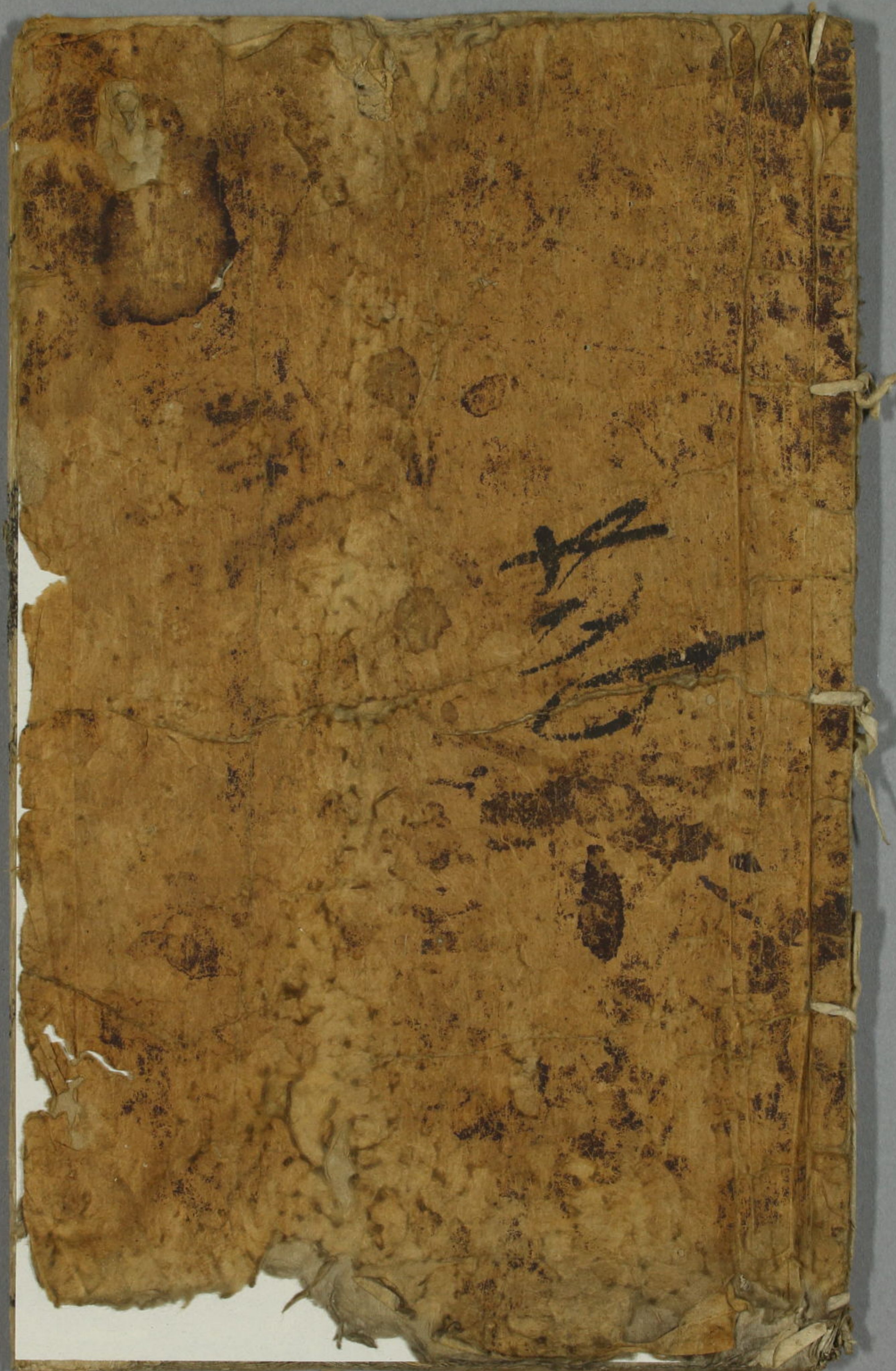




大原侯國書抄下卷

徳真同ていふ。おれ等のあつひのつゝの世に入
りて果を世にさづらん。なんぞ現世に徳入と

上人善ていふ。あつひのつゝの世に入

りてし。たゞし韋提希夫人の

おのゝ大悟無生をゆゑを和為と

七組 道を親して徳均無生と云ふ。これをそれとら

る。上利根の人。此力ゆゑの利を信解す。是は

現世に徳生を徳均に徳均付生と云ふ。これを

とち無生あり。あは我。行なり。あはれを思。擇

之し。

顯真同て。い。和尚乃あは。淨土は法門よ

此。離念は我を極るさだ。なんぞ今

を。も。て。名号は実神とん

上人。著て。い。く。も。相。は

修。因。母。子。し。念。念。は。果。徳。を。極。なり。諸。師。此

あ。は。れ。を。極。ん。修。因。感。果。と。も。に。無。お。れ。我。を

あ。と。て。あ。相。は。我。を。極。あ。は。ゆ。く。よ。れ。を

破。を。あ。り。此。力。は。実。神。を。論。む。れ。乃。時。は。和。尚

乃。あ。る。無。お。離。念。は。我。を。極。る。ん。を。記。なり

あ。は。が。ゆ。く。母。親。に。い。く。無。生。實。國。へ。な。く

常。を。り。と。さ。く。又。い。く。彼。無。生。を。見。れ。自

然。り。悟。と。さ。く。又。い。く。是。く。真。如。の。門。は。極

入。を。さ。く。又。い。く。法。為。常。恒。あ。て。此。は。我

再。塵。を。れ。と。さ。く。

法。與。同。て。い。く。天。台。宗。は。あ。は。極。を

見。れ。無。生。人。なり。あ。あ。り。あ。は。ん。成

大。東。山。集。卷。一。下。二

上人發心。

[illegible]

沙上白雲飛渡

三

かしれども人のん悪をさくしんぐきあに身
 易い名号をもつて拒罪の処をやめ
 せむとあつちをゆるれどもぐる。なんぞ
 力をかりぬせむ。あの人で大罪を
 流しあけんや。きとひ又た強盛あるに
 うりて。淫酒肉辛を禁ぜば。貪慾を
 断る。あつちのい。あんで悪を流しあけ
 ると。きとひ。これ世のつたえ
 なり。かきんをきせむにありて。いふ

みあれをさくしんぐきあに身
 あつちば。強盛の罪にあつちの智乃津土
 には世にあらん人。なんぞ。きとひを禁
 せむ。あつちのい。あんで悪を流しあけ
 ると。きとひ。これ世のつたえ
 かりぬせむ。あつちのい。あんで悪を流しあけ
 ると。きとひ。これ世のつたえ
 かりぬせむ。あつちのい。あんで悪を流しあけ
 ると。きとひ。これ世のつたえ

これ津山門乃安んり。あの中人智道を
 捨て津山門を離れ。藍鰲龍虎を制し。かた
 中人なり。若し此龍虎を制し。一念を思
 ふ。人へ戒定慧此三学。つぎの法。あれを
 修めせざる。あはれ中人。あはれ。此思を
 中人にせざる。そなたに中人を信する
 あはれ。あれもれなり。あはれ。あれを
 文治二年乃比。天台止る。顯真法中。永

舟を津山門として。上人乃とこそよ
 け。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 う。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 坂中。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 射西。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 死。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 母。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

おひきさめ給ふ家あへんあへんあへん
 上人のいふ。自他を免あへん。いふ。あへん
 さへ。家持のいふ。あへん。あへん。あへん
 とげん。なり。は。中。の。いふ。あへん。あへん
 を。と。け。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 て。いふ。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん

夫。は。母。の。いふ。あへん。あへん。あへん
 言。は。な。く。同。じ。に。あへん。あへん。あへん
 中。の。いふ。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん
 あへん。あへん。あへん。あへん。あへん

らる。おれゆへに淨土をあらざる。乃ち
善導の教をも。うめりて。法華の
人ば。新人の如く。せめて。いふ人。おれ言を
死て。大原の隠居して。百日淨土の章疏を
見よ。あつて。後。おれも。淨土の法
門を。見立。きり。上人。來修。志。終り。疾
き。て。つ。て。し。使。宿。又。永。并。なり。い。く
お。離。脱。乃。り。あ。と。地。經。を。授。乃。入
門。か。れ。ど。此。中。を。も。り。て。ぐ。く。を。法。

を。疾。く。し。て。疾。く。せ。ん。事。も。い。れ。一。人。の
徳。を。も。り。お。れ。も。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。
を。立。禪。寺。の。疾。く。せ。ん。と。あ。れ。よ。う。り。て。疾。の
頃。法。華。大。原。立。禪。寺。の。集。會。を。ぞ。れ。ち。法
を。疾。く。せ。ん。花。衣。な。く。ま。り。無。極。乃。疾。く。せ。ん。
法。華。大。原。立。禪。寺。の。疾。く。せ。ん。と。あ。れ。よ。う。り。て。疾。の
頃。法。華。大。原。立。禪。寺。の。集。會。を。ぞ。れ。ち。法
を。疾。く。せ。ん。花。衣。な。く。ま。り。無。極。乃。疾。く。せ。ん。
乃。ち。お。れ。も。永。并。なり。八。宗。頓。學。乃。ち。お。れ。も。
光。の。山。乃。ち。増。修。の。編。綴。乃。ち。お。れ。も。
乃。ち。お。れ。も。永。并。なり。八。宗。頓。學。乃。ち。お。れ。も。
乃。ち。お。れ。も。永。并。なり。八。宗。頓。學。乃。ち。お。れ。も。

天竺僧也

益玉寺此僧所居

長樂寺

乃中庭野人あり

所の道世人等あけ

大原の中村房湛

人々を云はる定

院の地付院乃念佛房

大原東連院

此の寺房甚多

其の山中尾の寺光

房の人なり

蓮契上人師付

十人

山門久遠の寺なり

大原の寺

大僧部鑑吉

静庵僧部竹林房

天竺僧也

松小僧部等外清光法師中松小僧部

大原房惠光房おれお寺の寺人等

静庵僧部鑑吉の寺人入る佛心房安住

長樂寺の定基房

八坂大和入る見

松林院此清淨房

松林の定基房

静光房

寺なり

右院寺静庵僧部已下。山門乃碩学。三十余人

南の山願の寺の人二十余人あり

よりて系念寺。是の寺静庵僧部等

首領として諸家碩学。二百余人三井乃大貳

衣源厚なり。と執る。とて。あま。て。奇を
 をも。あれ。三七日。不。念。佛。の時。十。二。人。也。
 法。華。房。正。觀。房。定。慧。房。慈。人。入。乃。恒。蓮。房。
 安。樂。房。慈。光。房。西。池。房。清。淨。房。念。佛。房。華。嚴。
 房。阿。陀。房。其。先。達。上。人。也。右。十。二。人。三。番。を
 守。て。勸。約。せ。し。家。三。七。日。とい。ふ。う。し。の時。是。者
 室。母。み。ら。て。音。樂。耳。母。さ。う。も。聽。同。人。と。云
 十八。乃。より。び。り。て。乃。家。三。七。日。の。已。此。時。阿。陀

後。如。來。現。現。一。終。上。人。あ。う。に。又。神。を。比。母。か
 げ。西。方。と。れ。し。て。飲。食。れ。な。ん。と。な。れ。が。一。高。い。ま
 念。佛。一。終。一。地。佛。母。慈。光。房。眼。前。母。現。了。て。畢。れ。お。と
 くと。あり。あ。う。ひ。る。人。母。を。と。れ。れ。が。之。母。を。ひ
 ま。ば。り。て。だ。それ。上。人。は。う。る。と。先。を。と。れ。あ。そ
 ま。う。と。あ。れ。を。み。る。人。と。を。恒。蓮。房。安。樂。房。西。池
 房。法。華。房。正。觀。房。清。淨。房。念。佛。房。華。嚴。房。阿。陀。房。
 聖。教。を。披。見。し。御。は。う。り。ひ。う。り。を。
 唐。乃。吾。等。和。尚。は。は。り。地。佛。を。

多。はより光のをあら。あ。未代
 を執る。あて。おれをそむか。や。上
 あか。人。夢。勢。至。ま。た。ひ。り。と。み
 て。あ。ろ。き。て。え。わ。げ。き。く。す。つ。れ。べ。お。れ。と。ら。
 上人のひりなり。あ。れ。と。く。み。る。あ。と。三。度
 なる。又。も。の。び。き。て。火。あ。げ。き。と。も。な。場
 あ。き。つ。あ。て。て。炬。火。乃。と。も。な。る。久。
 々。て。も。炬。火。の。と。も。あ。れ。も。て。お。思。ひ。乃
 光。の。あ。り。と。い。ひ。

首。標。殿。乃。勢。至。ま。章。母。の。と。も。な。る。周。地。り
 きて。念。佛。れ。と。も。て。無。生。忍。に。入。り。男
 女。あ。て。念。佛。乃。人。を。括。て。津。に。渡。す。む。
 お。れ。文。の。ひ。あ。い。ん。な。る。と。も。な。る。

源光上人生年

大原談義同書抄下巻終

大原談義 辛卯



